OCT 2016.

▼日本創造学会 **ICSNEWSLETTER**

第38回日本創造学会研究大会in沖縄

「沖縄の地域再生・活性化と創造力の展開」

-沖縄・創造ガジマル大会-

開催日程:2016年11月5日-6日

於: 名桜大学 (沖縄県名護市)



比嘉佑典 大会実行委員長 学術博士 日本創造学会名誉学会長 東洋大学名誉教授





名桜大学学生会館サクラウム





ガジマルは、沖縄の校庭や町の広場に傘のように 茂る樹木です。

夏は木陰の涼しさを求めて、人々が集まりユンタク (歓談)します。また、ガジマルは 方言で「みんな群がって集まる」という意味でもありま

す。それに因み本大会名としました。



めんそーれ(ようこそ)沖縄・創造ガジマル大会へ!歓迎申し上げます。

今大会のテーマは「沖縄の地域再生・活性化と創造力の展開」です。「地方消滅」の風の吹く中、政府の地方 創生の掛け声が鳴り響いています。こんな時代だからこそ、一地方「沖縄」に焦点を当て創造学会の創造力 を結集し、地域再生に寄与することも兼ねて、沖縄の北の地「山原(やんばる)」の地域貢献型名桜大学で開 催することになりました。今回の研究大会の特色は、会員の研究成果の発表はもちろん、「山原(やんばる)地 方の活性化の課題」に対して、創造学会の研究の成果を結集し、「地域再生」を応援するというスタイルも兼 ねています。

思えば1999年2月に、地元名護市において「学会の研究成果の社会的還元事業」(文科省奨励助成事業) により「父母のための21世紀の教育改革と創造性教育」について公開シンポジウムが行われたところでありま す。恩田彰会長(故)をはじめ、理事長の西勝、副理事長の比嘉佑典、理事の弓野憲一らによって、シンポジ ウムが開催されたことを懐かしく思い出されます。

今大会初日の基調講演は、「健康と生きがいのあるコミュニティーづくり ―トータル医療の立場から―」、昨 今トータル医療で話題になりました『タビックの新医療革命』(ゆい出版)のタビックグループ代表・宮里好一博 士(日本創造学会会員)に講演してもらうことになりました。博士は、医療法人タピックグループを率いて25年、 沖縄リハビリテーションセンター病院を中核に 医療、介護、健康、スポーツ、カルチャー、リゾートホテル等を 総合した、21世紀のトータル医療を目指すユニークで総合的・画期的な取り組みについて語ってくれます。

つづいて「会員の研究発表」が行われます。発表件数が予想を越えたのに大会実行委員会として気をよく しているところです。

2日目は、「名桜大学学生グループによる地域おこしと活性化のプレゼンテーション」がおこなわれます。 元 気のよい学生4グループの発表です。それを受けて学会の各専門の諸氏から評価と指導・激励をいただきま

その後、特別講座「創造性開発からみた新たな地域おこしと活性化への提言」について専門的立場からの 提言が行われます。

せっかく沖縄に来られるのですから、ちょっと余裕を持って沖縄を堪能してみてはいかがでしょうか。

◆-◆-◆- 研究大会要項 **-◆-◆-**◆

参加方法: 参加申込書フォームは学会HPからダウンロードし、事務局にメールで送付して下さい。

日程: 2016年11月5日(土)~6日(日)

会場: 名桜大学 学生会館サクラウム、北部生涯学習推進センター、

(所在地:沖縄県名護市字為又1220-146)※那覇空港からバス利用で1時間45分程度

内容: 講演会・研究発表・懇親会・ディスカッション等

参加申込締切: 10月末日 ※発表申込は終了しました。

大会参加費: 正会員3000円(4000円) 学生会員2500円(3000円) 非会員4000円(5000円)

)は当日払いの場合 懇親会費(希望者のみ、会費3000円)

第38回研究大会プログラム(予定)

1日目 11月5日(土)

<u>1日目</u>	11月5日(土)	
時間	プログラム	
12:30~	受付開始	
13:00~13:40	合同役員会 於:学生会館6階ホール	
13:50~14:50	基調講演 宮里好一氏 「健康と生きがいのあるコミュニティーづくり ―トータル医療の立場から―」 於:学生会館:サクラウム 司会:櫻井敬三理事長	
15:00~17:00	一般研究発表 於:名桜大学北部生涯学習推進センター研修室	
17:00~17:50	総会・表彰式 於:名桜大学北部生涯学習推進センター研修室	
18:00~20:00	懇親会 於:学生会館6階ホール	



美ら海水族館のジンベイザメ

2日目 11月6日(日)

<u>- </u>	11/JVH (H/		
時間	プログラム		
8:30~	受付開始 於:学生会館:サクラウム		
9:00~12:00	名桜大学学生グループによる地域おこしと活性化の活動一学生のアクティブラーニングによるアクション リサーチー プレゼンテーション 総合司会 比嘉佑典(名誉学会長)		
	専門家からのアドバイス アドバイザー: 國藤進、高橋誠、澁谷貞子、樋口健夫、山浦晴男		
12:00~12:50	休憩 昼食		
13:00~15:00	特別講座 於:名桜大学学生会館3階大講義室 創造性開発からみた新たな地域おこしへの 提言 司会 澁谷貞子副理事長 講師:國藤進、山浦晴男、樋口健夫		
15:30~	名桜大学発表学生グループと参加者および招待客との地域交流懇親会 於:学生会館6階スカイホール		
17:10	閉会		

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。

●●●会場までの交通のご案内●●●

各地から沖縄へ

沖縄までの航空券は個人での手配・予約をお願い致します。

- ○航空会社の先得割/早割/旅割等の割引航空券の購入(購入時期・方法は各航空会社にご確認下さい)
- ○LCC(ローコストキャリア)の利用(スカイマーク、ジェットスター、バニラエアー、ピーチアビエーション等) ※LCCは格安ですが羽田発・成田発、乗り場まで遠い、変更や遅刻は払戻しがない、荷物は別料金 等各種制約がありますので、よくご確認の上ご購入ください。
- ○ツアー会社の航空券・レンタカー・宿泊の格安セットプランを利用する(ツァー会社にご確認下さい)

那覇空港から名護バスターミナルまで

- ○高速バス利用:1時間に2回発車(高速バス111番)、所要時間:1時間45分 運賃:片道2190円
- ○レンタカー利用:沖縄自動車道利用で所要時間1時間30分
 - レンタカーは個人で予約をお願いします。沖縄での移動は車が便利です。

(料金例:コンパクトカー(マーチ・デミーオ5人乗り)1泊2日5,300円程度より、レンタカー会社によって料金は異なります)

名護バスターミナルより名桜大学まで(高速バスをご利用の方)

○タクシーにて約10分(約1,000円)

●●●宿泊施設のご案内●●●

○北部生涯学習推進センター(名桜大学キャンパス内)

※この施設のみ参加申込書に宿泊欄が記載されています。これからのお申込も可能です。(10月末まで)

北部生涯学習推進センター宿泊施設レイアウト

4名1室(内部で2部屋に別れる)

1名1泊4,000円(素泊まり)

6部屋24名まで収容可能

※レンタカーを借りない方はキャンパス内にある、 この施設利用が便利です。

ベッド		#	:	ベッド
		ッ チ		
ベッド			i	ベッド
	冷			
風呂 h -	(1)	玄関		レー・風呂

以下のホテルは個人で予約をお願い致します。表示料金は目安です。料金詳細はホテルにご確認下さい。

- ○スーパーホテル沖縄·名護 (名桜大学に一番近いホテル)1泊6,000円程度より~ Ta:0980-50-9000
- ○ホテルゆがふいんおきなわ(バスターミナルまで徒歩10分、名桜大学近い)1泊6,500円程度 Ta:0980-53-0031
- ○ホテルルートイン名護 1泊7,500円程度~150980-54-8511

●基調講演●

11月5日(土)13:50~14:50(予定)

「健康と生きがいのあるコミュニティーづくり

- トータル医療の立場から-」



講演者: 宮里好一

医学博士・医療法人タピックグループ代表 第38回日本創造学会研究大会副実行委員長

~宮里好一プロフィール~

岡山大学医学部卒、琉球大学医学部講師、総医局長宮 里病院開院、沖縄リハビリテーションセンター病院開院、 沖縄ウェルネスリゾート・ユインチホテル南城オープン 兼務職

名桜大学経営審議委員、沖縄県地域医療構想検討会 議委員、日本リハビリテーション病院・施設協会理事、ユネスコ沖縄常任理事

(著書)

『痴呆(ちほう)の基礎知識』(単著)『こころの臨床―21世紀の精神科医像』(共著)『誘発電位の基礎知識と臨床』 (共著)『病院心理臨床』(共著) 宮里好―『タピックの新医療革命』(共著)その他

【講演会の概要】

- 1 タピックの概要
- 2 誕生は1989年12月2日

冷戦の終結宣言(マルタ島)と日本のバブル絶頂期

- 3 「再生と創造」を掲げて精神科病院を引き受けた経緯
- 4 リハビリテーションの世界へ

「奇跡」の沖縄リハビリテーションセンター病院開設とアース号Asia Rehabilitation Shipの夢。 創立20周年記念事業(3部作出版と2つの祝賀会、2017年12月2日、アガイ ティーダホテル知念にて)

- 5 医療・福祉・保健から文化・スポーツ・観光への広がり ペアーレ沖縄と沖縄厚生年金休暇センターを国から継承。公庫からの出資。名護・沖縄・南城・(うるま・ 那覇)。「公民連携」の道へ。
- 6 中国深圳・江陰の両市、ニューヨーク・グリーンチムニーズのご縁
- 7 沖縄県内3市におけるコミュニティーづくりへの参画

名護市屋我地島のケース

沖縄版CCRC、屋我地中学跡地利用、「海洋シニア移動大学」 沖縄市のケース

メディコポリス・CCRC、スポーツコンベンションシティーの中核へ 南城市のケース

医療ツーリズム、アレルギー対応ツアーなど

- 8 いざ行かん「吾等が家は五大州」(移民の父・当山久三)。「再生と創造、公民連携」の歩みの先には、沖縄・日本・アジア・世界への貢献
- 9 猿人の思想 地球と人類はひとつ 東アフリカが原郷
 - 「21世紀の世界医療」の在り方と基本理念(『タピックの新医療革命』エピローグから)
 - ①医療の社会化 主体は地域社会、住民 ②医療の総合化 ③統合化 ④産業化
 - ⑤社会的共通資本化 ⑥国際化 ⑦自然化



11月6日(日) 9:00~12:00

名桜大学学生グループによる地域おこしと 活性化の活動プレゼンテーション

総合司会:比嘉佑典

1 新入生のフィールドワークによる地域交流学習 (遠矢英憲指導グループ)

[概 要] 名桜大学は、「教養教育」の取り組みとして、全学の新入生を対象にフィールドワークを実施している。その目的は「教育の質的向上」を目指しているが、地域貢献型の大学として手始めに新入生に地域社会を理解するとともに、地域の課題を見つけて、その課題にグループで検討してその解決の道を探ることによって、地域と大学の関わりを通して教養と学士力を高めることを目指して行われ、毎年一堂に会して「グループワークパネル展」を行い評価している。

2 「沖縄の健康・長寿復活に向けた新たな健康づくりのかたち」 (高瀬幸一指導グループ) -公民館を毎日の運動の場に!3DCGプログラムを用いた名桜型健康支援-

[概 要]沖縄県の北部地域では、高齢化や過疎化の問題が、地域のコミュィの活性化を妨げる要因となり、 健康問題の解決を図ると共に地域のコミュニティの活性化を目指した仕組みづくりが急務となっている。そこ で名桜大学へルサポは、自治体と連携・協働してこれらの問題を解決する取り組みを実施している。

3 学生・地域住民・教員で取り組む「ゆんたく健康増進活動」

(大城凌子・永田美和子指導グループ)

[概 要]VAG (Volunteer Activity Group) は、看護学科学生が、様々なボランティア活動を通して、地域とのつながりや、教職員、学生間で協働する体験ができるよう支援することを目的に、「今、自分達にできることから始めよう! 一気がついたらレスポンスー」を合い言葉に、地域貢献活動を行っている。特に、「ゆんたく健康増進活動」は、大学近隣の市町村の住民と看護学生および教員が住民参画型の健康増進活動を協働で展開し、地域の活性化および高齢者のエンパワメントに貢献している。

4 地域における出前授業「食育劇」による食育推進活動(前川美紀子指導グループ)

[概 要]早寝・早起き・朝ごはん一生活リズムを整えることの重要性一」について、劇を通して伝えている。ゼミ生で考えた「食育劇」の内容は、朝ごはんを食べること、また、好き嫌いしないでしっかりたべることそして、夜の9時までには寝ることの大切さを、子ども達に理解しやすい内容になるよう演じている。

20分の劇は、参画型で子ども達へ確認しながら進めている。劇終了後に、「おさらい」として、主人公モデルぬいぐるみで体が作られている様子や、栄養素がわかりやすいように作成したエネルギーボトル、最後に絵巻で睡眠の大切さについて説明する。

【専門家からのアドバイス】

國藤 進(KJ法の立場から) 高橋 誠(創造的問題解決の立場から)

澁谷貞子(看護教育実践の立場から)

樋口健夫(アイデアマラソンの立場から) 山浦晴男(寄りあいワークショップの立場から)

11月6日 13:00~15:00 特別講座

創造性開発からみた新たな地域おこしと活性化への提言

司会 澁谷貞子副理事長(日本医療科学大学)

●「ミニ移動大学」の活動からみた地域おこしへの提言 國藤 進

(北陸先端科学技術大学院大学名誉教授•客員教授)

●地域再生と寄りあいワークショップの実践 山浦晴男

(情報工房代表·千葉大学大学院看護学研究科特命教授)

●アイデアマラソンで住民全員の創造性を向上させ 地域再生の基盤を造る

樋口健夫

(アイデアマラソン研究所代表・博士)





11月5日(土) 研究発表 15:00~17:00 生涯学習推進センター研修室(A~F会場)

※主発表者氏名のみ記載 発表20分 質疑5分 入替5分

A会場 司会進行: 豊田貞光·澤泉重一

	印式进门,显出其儿, 倖水里		
時間	発表者名	発表タイトル	所属
15:00-15:30	澤泉重一 思いがけない発見をもたらすセレンディピティの活用 S		SAM日本チャプター
15:30-16:00		を司 他 イノベーション創出思考法 - 隠れたニーズと新たなシーズをマッチングする思考展開法-	
16:00-16:30	豊田貞光	「イノベーティブな組織風土を創りだす変革アプローチの研究」 -3つの創造的メソッドを軸に-	産業能率大学
16:30-17:00		特許情報データベースを活用した共同研究テーマ探索における KJ法適用の有用性に関する事例研究 ーマエカワの共生菌「エンドファイト」事業の事例研究―	東北文化学園大学

B会場 司会進行: 奥正廣·高橋誠

<u> </u>			
15:00-15:30	奥 正廣	サステイナビリティ教養教育の構想に向けて2	東京工科大学
15:30-16:00	國藤 進 他	N - C XX 由力 T 「ラ(・	北陸先端科学技術 大学院大学
16:00-16:30	高橋 誠	創造技法をアクティブラーニングに活用する事例研究	㈱創造開発研究所
16:30-17:00	石井力重	鳥松生申(/) 発伸すん授業 (/)関発	アイデアプラント /早稲田大学

C会場 司会進行: 澁谷貞子·田村新吾

<u> </u>		<u> </u>	
15:00-15:30	石井力重	アイデアを書くため専用のメモ用紙「猫の手」	アイデアプラント / 早稲田大学
15:30-16:00	広崎 心 他	付加価値後発品におけるアライアンスの実体調査について	日本経済大学
16:00-16:30	竹井 潔	AI時代におけるブレイクスルー思考	聖学院大学
16:30-17:00		創造企業における人的結合論 発明者輩出時代のソニーの社員活性メカニズム	WonderWorks Corporation

D会場 司会進行:前野隆司·徐方啓

15:00-15:30		創造経営と創新管理	近畿大学
15:30-16:00	本 責角 Multicultural Ecology of Macao Cit		City University of Macau(マカオ)
16:00-16:30			近畿大学
16:30-17:00		A Comparative Study on Teaching Effects of Different Innovative Methods for Curriculum System:An Empirical Study	Northeastern University (中国)

E会場 司会進行: 櫻井敬三·姜理恵

15:00-15:30	姜 理惠	産学協働ベンチャーの実践と学生の起業意識調査	新潟薬科大学
15:30-16:00	王 珊珊	起業に関する研究動向のレビューと今後の研究課題 - 起業初期段階におけるリアリティショックへの注目 -	日本経済大学
16:00-16:30	金子友海 他	日前由 エ・バノニア同け」も(/)~() 数台 に「6体験的学習</td <td>北海道科学大学 短期大学部</td>	北海道科学大学 短期大学部
16:30-17:00	櫻井敬三 他	創造性テストの心拍計による自律神経計測評価	日本経済大学

F会場 司会進行: 樋口健夫·國枝佳明

15:00-15:30	三枝省三 他 初年次教育における思考・発想力の強化 ~アイデアマラソンを導入したアクティブラーニングの実践~		就実大学
15:30-16:00	6:00 國枝佳明 他 海事教育におけるアクティブラーニング		東京海洋大学
16:00-16:30	岡田政則	場と過程を考慮した創造性仮説	金沢学院大学
16:30-17:00	樋口健夫	企業の新人教育におけるアイデアマラソン発想法の効果	アイデアマラソン研究所

▲▼▲第44回クリエイティブサロン (2016年 7月9日) 開催報告▲▼▲

第1部講演会:「シリコンバレーの歴史に学ぶイノベーション」

講師:伊東健 (一般社団法人 日本アスペン研究所 常務理事)



シリコンバレーは世界的なIT企業がひしめく一大産業地である。そのシリコンバレーの生い立ちと、地域的特長、そして発展の歴史を最初に振り返った。1909年創立のFTCが最初で、1939年創立のHPが二番目の当地ハイテク企業だった。その後、1955年にショックレーが半導体研究所を設立したことを契機として半導体産業が始まり、その後の発展と『シリコンバレー』の命名(1971年)へとつながった。1970年代にはゼロックスPARCが次々と革新的IT技術を生み出し、その成果がアップルやマイクロソフト、3COMやアドビといった新興企業に引き継がれていった。そして1990年代以降のインターネット時代を迎える。その後2005年頃からCollaborative Consumptionの時代に突入し、現在に至っている。

半導体産業の勃興から現在まで継続してイノベーションの連鎖を巻き起こし、世界のIT産業をリードし続けているシリコンバレーとは一体どんな場所なのか。その風土とはどんなものなのか。文化的・民族的多様性、周囲に優秀な大学の存在、オープンかつ情報共有をする風土、VCによる膨大な投資、失敗に対する寛容、スタートアップを支援する各種外部インフラの存在などがその特長である。

新しいトレンドとしてグリーン技術関連の投資が活発に行われており、政府の政策の後押しもあるが、息の長い研究開発を支え、幅広い技術要素を必要とするグリーン技術もまたシリコンバレーが最適の地と言える。最後に「第二のシリコンバレーを創ることは可能か?」という問いに対する私見を述べた。講演後、簡単なワークショップとして日本におけるイノベーションのSWOT分析を参加者に試みていただいた。(記事: 伊東健)

第2部講演:「学生ベンチャーによる地方創生」

講師:熊野正樹(九州大学 産学官連携本部 ベンチャー創出推進G 准教授)



我が国の経済を活性化させるうえで、開業、中でもベンチャー企業の開業を促進することは重要な課題である。現在、起業家を志す人々の裾野を広げることを目的として、多くの大学で起業家教育が行われている。しかし、我が国の開業率は依然低調な水準で推移しており、必ずしも成果が上がっているとはいえない状態である。一方、地方創生とは、つまるところ若者の地方への定住である。東京一極集中の解消、地方の人口減の解消、地域の成長など政府が掲げる地方創生を実現するためには、若者の地方への定住が不可欠である。若者が地方に定住するためには、若者の働く場が必要である。地元に働く場がないのであれば、若者が起業して雇用の場を創出していくということも検討していく必要がある。

地方創生という文脈においても、今後ますます、若者に対する起業家教育が重要になってくる。 そこで、本講演では、起業家教育の最適なあり方を探るため、崇城大学起業家育成プログラムの事例を通して、ベンチャー企業創出において起業家教育が果たすべき役割とは何か、起業家教育がベンチャー企業を創出するにはどういった内容が必要なのかを論じる。

本プログラムは、①講義(ベンチャー起業論 I・II)、②部活動(崇城大学起業部)、③学生起業支援の3本柱で実施しており、学生のアントレプレナーシップの涵養はもとより、学生起業家の輩出と育成に注力し、学生ベンチャーによる地方創生を目標としている。熊本県では、若者の県外流出が深刻な課題になっており、本プログラムは、起業による若者の県内定着、地方の活性化をも目指している。これは、一地方私立大学のささやかな話ではあるが、この現実と活動を注意深く考察すると、我が国の起業家教育が抱えるいくつかの問題点とその打開策が浮き彫りになる。

起業家の輩出を前提とした大学における起業家教育で重要なことは、ベンチャービジネスとは何か、起業のタイプ、投資と融資の違い、ベンチャー型企業を選択する意義など、起業に関する基礎的知識を教育し、動機づけを行ったうえで、本当に起業したい学生に対しては、部活動等の課外活動の場を用意することである。さらに、外部の専門家やメンターによる支援や、ビジネスプランコンテスト参加のための交通費、試作品開発等の資金提供等、起業家育成のための資金を確保したうえで、起業家教育と起業支援を連動させる必要がある。 (記事: 熊野正樹)

☆日本創造学会論文誌vol. 19(2015)論文賞☆

2016年7月開催の学会賞委員会の審査の結果、論文誌Vol.19(2015)論文賞は下記の論文に決定致しました。(2件ともに奨励賞)

【奨励賞】

分散ブレインストーミングにおけるフィードバック 視覚化機能の順序効果

古川洋章 川路崇博 由井薗隆也

分散ブレインストーミング環境で、参加者の内発的コミュニケーションを維持するフィードバック視覚化機能を提案・実装した。

この機能のある/なしでアイデアの流暢性、柔軟性、独自性に基づく評価実験を行った。独自性が高くなること、アイデアの量と質の相関などの有意な結果を得た。本システムは参加者が多くなった場合や長期的使用での評価など、実システム適用にあたって今後検討すべき研究課題も多い点で論文賞(奨励賞)として推薦された。

(学会賞委員:國藤進)

【奨励賞】

コミュニケーション能力を向上させるための関わりを重視した創作ダンスのデザインに関する研究 澤 聡美 三浦光司 竹村 哲

創作ダンスの効果を検証する研究に、検証が困難であるにもかかわらず挑戦した意義は大きい。この挑戦に対する評価として奨励賞は適切と考える。W型解決モデルにラベルワークを用いたのも適切と考える。しかし、前後に行ったEQIテストの結果は、人間関係性と情緒感受性の2項目のみの向上であった。これは集団での創作ダンスの実施からは容易に想像されるもので、新たなる発見とは考えられない。研究レベルを向上させるには、実験対象の人数を増やす、感情のみでなく思考などの変化を取るなど、もう少し緻密な計画を立てることが望まれる。

(学会賞委員:高橋誠)

◆ ◆◆新入会員紹介◆◆◆

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
柳 偉達	正会員	近畿大学短期大学部	大阪府	流通経済論
永田美和子	正会員	名桜大学	沖縄県	高齢者看護
松下臣仁	正会員	金沢工業高等専門学校	石川県	第2言語としての英語教授法
金子友海	正会員	北海道科学大学 短期大学部	北海道	ゲーミフィケーション
三枝省三	正会員	就実大学	岡山県	イノベーション技術経営
森宮祐次	正会員	㈱アカリネ 日本大学	千葉県	デザイン学
広崎 心	学生会員	日本経済大学	横浜市	製薬業界におけるM&À マーケティング
渡邉 惠	正会員	e-ビジネス・スタイル(株)	埼玉県	無機物理化学

2016年度会員総会について

2016年度会員総会は、11月5日17時00分より研究大会会場の名桜大学(沖縄県名護市)で開催されます。参加できない場合は、学会より送付される往復葉書の返信にて、期日までに委任状をご提出下さい。

事務局メッセージ

沖縄県は全国で一番人口年齢の若い県です。 年少人口(0~14歳)は日本で最も多く、何より 良いことは、人口の自然増加率が高いことです。 これは沖縄の潜在的成長力の高さを示していま す。首都から遠い特有の文化の島だから他県と は別物、と思考を止める前に、沖縄の力を様々な 角度から再考したいと考えます。

名桜大学の、地元に密着し貢献するパワフルな若者達の取り組みは、沖縄力を考える、1つのヒントになるのではないでしょうか。

(事務局:比嘉)

日本創造学会 ニューズレター

2016年10月発行(№3) 日本創造学会事務局

発行人:櫻井敬三 編集担当:比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市鬼高

4 - 7 - 6 - 816

Tel 080-3465-6152 Fax 047-314-6380

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp http://www.japancreativity.jp/